

# 紹介

## 超低レートの通信回線でも安定した映像伝送

### ハイテクインター

SEECAIT テロ対策特殊装備展20

災害現場や山間地域、離島など、日本国内にあつても十分な通信ができない状況下でもリアルタイムで現場の状況を確認できる映像伝送技術の重要性は年々高まっている。

ハイテクインターは、長年の官公庁などの顧客の要望に応えるべく、通信インフラが不十分なエリアからの映像伝送を行う技術や商品を開発してきた。

今回のSEECAITで紹介する製品、ULC(Ultra Low rate video Codec)は、超低レートの通信回線でも安定した映像を伝送できる映像圧縮技術。

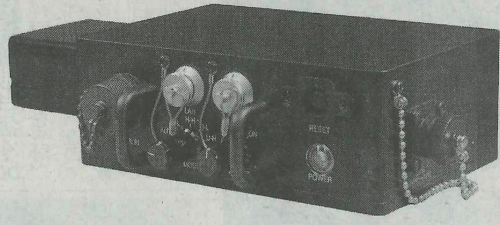
一般的な映像圧縮コーデック H・265をベースに、ビットレートの振れ幅があっても設定したビットレートを超えないように映像を送る技術に加え、衛星回線や特定無線などの限られた

帯域でも映像が乱れず送れるようになった。最低5 kbps、0.25 FPSからの映像伝送を可能にするこの技術は、通信回線が細い現場からの映像伝送に非常に力を発揮する。

併せて紹介するMPU5は、5・7 GHz帯を利用する無人移動体画像伝送システム。ドローンや船舶、無人ヘリなどに組み込み可能で、エンコタ機能を有し、MPU5間でアドホックのネットワークを構築できるため、人が立ち入れないエリアや山間部、海上などからリアルタイムでの映像伝送が可能になる。

本年実施された実証実験では、ULCの技術とMPU5の伝送ネットワ

ークを組み合わせ、通信インフラのない離島から衛星回線を使った映像視聴を実現した。SEECAITではULRi式空中線も紹介する。



ULCは超低レートの通信回線でも安定した映像を伝送できる映像圧縮技術

ぜひハイテクインターのブースに立ち寄り、実機を確認してほしいとしている。